

牛を見る力を身に付ける

新ひだか町静内和牛生産改良組合青空教室行っ

3月30日、新ひだか町静内和牛生産改良組合（組合長 渡辺隆 組合員32名）では、青空教室を行いました。

教室には、素牛生産者23名をはじめ、農業関係機関から4名、JA職員5名の計32名が参加。

この日は、新ひだか町役場農林水産部酒井哲也部長が講師を務め、昨年末から現在までの高値で推移する素牛市場の動向とその原因について、尻・腿・膝・腹・背・胸・肩・顔という牛を見る際のポイント8点について細かく説明が行われました。加えて同氏は、新ひだか町和牛センターで肥育する素牛の買い付けを担当していることから、購買者目線からの良い牛、悪い牛という話も交えていました。

また今回の教室は、田原地区の渡辺隆組合長の農場と豊畑地区の原忠夫さんの農場の2箇所で行われており、ここでは、4月市場への出陳間際だった合計18頭の素牛を指導をもとに参加した生産者それぞれが評価する品評会も合わせて行われました。



実際に牛の前で酒井部長が説明しました。



出陳間際の素牛をそれぞれ品評しています。

市場評価向上のために

東日本大震災以来、肥育業者の購買意欲減退などにより、素牛市場は落ち込みを見せておりましたが、昨年末から回復をみせ、高値で安定しています。新ひだか町静内和牛生産改良組合では、その逆風を追い風に変えるため様々な活動、そして、成果を残しています。

組合員の努力実る

「分娩間隔値の部」2年連続北海道第1位獲得

（社）全国和牛登録協会が表彰を行う「分娩間隔実績値の部」で、新ひだか町静内和牛生産改良組合が、平成22年度に引き続き2年連続となる北海道第1位を受賞しました。

100頭以上の繁殖牛が登録されている全国447認定和牛改良組合を対象に調査が行われた平成23年度表彰では、全国の平均分娩間隔412.20日に対し、本改良組合では1210頭の繁殖牛で、385.45日を達成し、全国では第4位と惜しくも2年連続での全国第1位は逃したものの、冒頭の通り、道内では見事2年連続での第1位受賞となりました。

渡辺組合長は「繁殖牛の加齢に伴い、飼養管理が難しくなってくる中、2年連続で北海道1位を獲得出来たことは、組合員一人一人が日々の管理へ対する意識、技術が高い証拠だと思えます。これからは、この賞を3年連続で受賞できるよう努力していきたい。」と話していました。



2年連続の受賞おめでとうございます！

また、本改良組合では平成23年度販売金額が、過去最高となる4億1300万円を達成しました。これは、過去最高となった平成22年度の販売金額3億3400万円を更に7900万円も上回る結果となり、渡辺組合長からは「震災等の影響により、全国的に購買者の市場離れがあった中、このように販売金額を伸ばせたことは健闘したのではないかと考えています。」と話していました。